

環境の現地調査の概要（動物、植物、生態系）

1．調査内容

動物、植物

どのような種類の動物が生息し、植物が生育しているかを調査したいと考えています（動物相、植物相の状況）。また、その中に重要な種がないかどうか、いた場合にはその状況について調査したいと考えています（重要な種及び注目すべき生息地、群落）。調査項目は次の内容を考えています。

動物：哺乳類、鳥類、両生類（カエル等）、爬虫類（ヘビ等）、魚類、昆虫類、底生動物（エビ類、水生昆虫類等）、クモ類、陸産貝類（カタツムリ等）、土壌動物（ムカデ等）。

植物：種子植物（多くの樹木、草本）、シダ植物、蘚苔類・地衣類（コケの仲間）、付着藻類、菌類（キノコ類等）、植生（林や植物の分布）、樹木の活力度（健全度、枯れ具合）、緑の量（緑被率、緑の体積）。

生態系

地域を特徴づける生態系として、特に湧き水という特徴的な環境が存在する野川・国分寺崖線周辺を調査したいと考えています。地下水の流れと供給、そこから湧き出る水辺と生物との関係に着目した食物連鎖の関係について調査したいと考えています。

2．観測時期

調査は動物の活動時期、植物の生育時期に合わせて、次のような時期に行いたいと考えています。

	早春	春季	初夏	夏季	秋季	冬季
哺乳類		○		○	○	○
魚類		○	○		○	○
鳥類		○	○		○	○
両生類	○	○		○	○	
爬虫類		○		○	○	
クモ類		○		○	○	
陸産貝類		○	○	○	○	
昆虫類		○	○	○	○	
底生動物	○	○		○	○	○
土壌動物		○				

	早春	春季	初夏	夏季	秋季	冬季
種子植物		○	○		○	○
シダ植物		○			○	
蘚苔類					○	
地衣類					○	
菌類、植生				○	○	
付着藻類		○		○	○	○
樹木活力度、緑の量				○		

表 - 1 動物の調査時期

表 - 2 植物の調査時期

調査時間については原則日中を考えています。ただし、動物の活動時間は種類ごとに異なるため、それぞれの動物の活動に合わせて行う必要があります。そのため、鳥類は早朝（5:00 頃～9:00 頃）を中心に、日中（8:00 頃～日没）、日没後 1 時間程度まで、哺乳類、爬虫類、両生類及び昆虫類は日中から夜間（日没～22:00 頃）までを考えています。

3．観測方法

調査は計画路線周辺全域を対象とした一般調査フィールドと、河川、大規模公園等の比較的自然環境が残っている地域を対象とした重点調査フィールドに分けて行いたいと考えています。

動物、植物

＜一般調査フィールド＞

表 - 3 に示した観測方法のうち、主に目視による調査を中心に行いたいと考えています。魚類、昆虫類、植物のように捕獲しないと種の判別がつかない場合には必要に応じて捕獲・採集します。調査項目ごとに数名が 1 組になって徒歩で移動しながら調査します。

＜重点調査フィールド＞

一般調査フィールドで行う調査に加え、目視では発見しにくいネズミ類や昆虫類等について、調査位置を固定しての捕獲調査（別紙観測位置図（案）の写真参照）も行いたいと考えています。調査位置を固定しての捕獲調査は 1 組数名で、1 箇所当たり概ね 2 時間程度を考えています。

生態系

地下水の流れと供給、そこから湧き出る水辺と生物との関係に着目した食物連鎖の関係を把握するため、湧き水に特徴的な動物とその生息環境（湧き水、土壌水分等）及び食物連鎖の上位種であるオオタカ、カワセミ、サギ類の生息状況を調査したいと考えています。

調査項目		観測方法の概要
動物	哺乳類	目視による生息種・痕跡（足跡等）の観察。ネズミ類を対象とした捕獲調査（写真参照）
	鳥類	目視、鳴き声等による生息種の観察（設定されたコースを歩きながら観察するラインセンサス法及び見渡しのきく定点で一定時間観察する定点法を含む）
	両生類・爬虫類	目視、鳴き声等による生息種の観察
	昆虫類	目視、鳴き声等による生息種の観察と採集。目視では確認しづらい昆虫についてはバイトトラップ法（写真参照）、ライトトラップ法（写真参照）を併用
	魚類	網や投網による採集
	底生動物	サーバーネットによる採集（写真参照）
	クモ類、陸産貝類	目視による生息種の観察と採集
植物	土壌動物	目視による生息種の観察と採集。土壌を採取し、その中にいる土壌動物を調査
	種子植物、シダ植物、蘚苔類、地衣類、菌類	目視による生息種の観察と採集
	付着藻類	水辺の石に付着している藻類の採集
	植生調査	目視による植生図（林や草地の分布図）の作成
	樹木の活力度、緑の量	目視による観測調査
生態系	野川・国分寺崖線周辺	オオタカ等
		カワセミ
		水鳥（サギ類等）
		湧きに依存する生物と生息環境

表 - 3 観測方法

4．観測位置図

調査範囲は計画路線周辺（事業実施区域から概ね片側 250m の範囲）及びその周辺の動物、植物の主要な生息、生育範囲を加えた範囲を考えています（別紙観測位置図（案）参照）。